野々市市市民の防災意識の向上

チーム名：ぷんぷん丸
鈴木琢也　田邊健吾　林宏樹　本間凌太　松坂育哉　松澤卓
Takuya SUSUKI　Kengo TANABE　Hiroki HAYASHI　Ryota HONMA　Ikuya MATSUZAKA　Taku MATSUZAWA

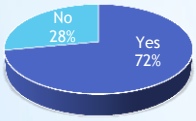
金沢工業大学　環境・建築学部　建築学科
Kanazawa Institute of Technology

Abstract

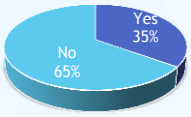
自然災害の少ない地域の住民は、被災に対する危機感が比較的薄い。防災訓練であっても習慣的になり、危機感を感じることはほとんど無い。そこで野々市市民に災害に対して危機感を持たせることは、被害の軽減化に繋がると考える。本プロジェクトでは、防災訓練の現状と災害に対する危機感について調査を行った。調査の結果からリアリティーのある危機感を持たせるための被災体験を行うシステムを提案し、被災体験の中の一つを具体化し実行案を考案した。

1．目的

平成21年7月に中国・九州北部豪雨により山口県で大規模な土砂災害があった。図１はこの豪雨を体験した山口大学の学生を対象として行われた災害の危機感に関するアンケート結果である。



意識○



危機感×

質問1（左図）：自然災害がいつ起きてもおかしくないと思う
質問2（右図）：台風や梅雨の時期に不安感を抱く

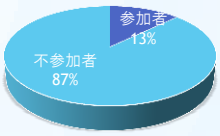
図1　アンケート結果

災害に対しての意識はあるが危機感が薄い。

↓

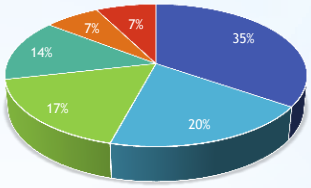
災害に対する危機感を持たせる

2．現状の調査



参加率低い！

避難訓練参加率（7月3日データ）

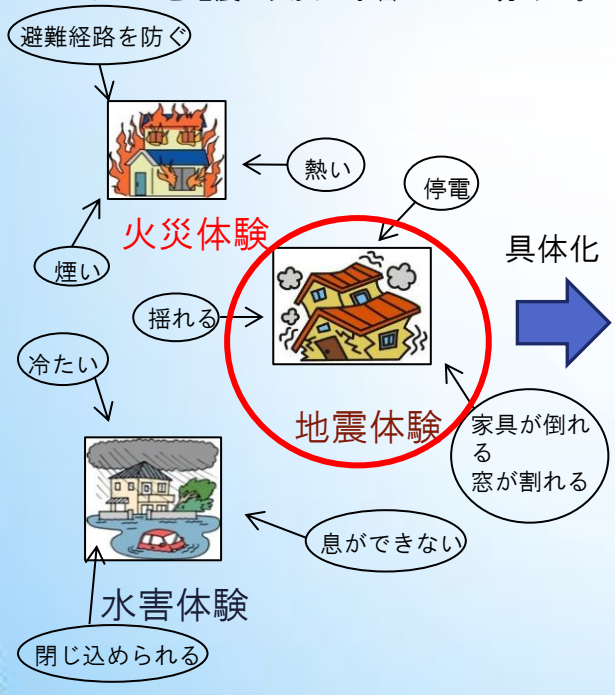


参加しない理由

（１）平日に行われていること
（２）時間が長い
（３）内容が毎回同じで固い
（４）行くのが面倒である

3．アイデア

危機感を持たせることができて現状の問題点を解決できるようなアイデアを創出した結果、被災体験をするというアイデアが出た。またそのアイデアを地震・火災・水害の3つに分けた。



具体化

4．実行案

被災体験

震災前

家具を倒す
電気を消す
音を鳴らす

震災後

懐中電灯を探して、避難！

暗い中の音
物が散乱
避難経路が塞がれる
急な場面の転換

危機感
恐怖心